とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0518
施設名	東中川保育園
施設所在地	東京都葛飾区高砂6-4-15
法人名	社会福祉法人東中川会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

大型つみ木を使って遊び、皆で協力し合う楽しさを知る。

＜テーマの設定理由＞

幼児組となり、子ども達同士で話し合う機会が増えたが、それを更に深め、
又、話し合う事で楽しくなる経験をさせたかった。

２．活動スケジュール

2025年2月より。初回は３・４・５歳　各クラスで遊ぶ。
１回目：自由に。2回目：ルールを決めて。３回目：見本を真似て。
最終的に年齢縦割りでチームに分かれて話し合って遊ぶ。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・大型積み木
・大型積み木を入れるラック

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・3，4，5歳クラスごとで遊ぶmその後、子ども達がルールをきめていく。
・ルールを確認して遊ぶ
・保育士の見本をみて真似して作ってみる。
・小さな積み木でも遊んでみる。
・3，4，5歳の縦割りクラスで遊ぶ

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・初回興奮状態で楽しすぎた様子で、時々、子ども同士のトラブルはあれど、
すぐに遊びたくてお互いにすぐに謝り、遊びを再開していく姿が度々見られた。
・自分たちが経験を通してルールを決めているので、自ら進んで守ろうとする
姿があった。
・活動後、子ども会議にて友達の発言を聞き、気が付いたり、学んだりしている
姿があった。



2

の



5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・子ども達のいつもとは違う姿が多くみられた。
・子ども同士話し合うなかでの、子ども達自身の気づきが、想像を遥かに超えた。
・楽しいことを目の前にした時の、子ども達同士でのトラブル解決能力の素晴らしさ。
・子ども同士の解決能力が素晴らしかったので、普段の言葉がけは過剰だったのではと
反省をした。
・まだまだ継続的に見ていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0518
施設名	東中川保育園
施設所在地	東京都葛飾区高砂6-4-15
法人名	社会福祉法人東中川会

１．活動のテーマ

音

＜テーマの設定理由＞

様々なものに興味があり「あれやってみたい」「こうしてみたい」と意見が飛び交うクラスで、昨年度も5歳児クラスが太鼓教室をしているのを楽しみにしていた為。

２．活動スケジュール

通年週一回　毎週金曜日
初期　　太鼓に素手で触れてみる。
　　様々な技法で打ってみて感触や音の違いを楽しむ。
夏頃　　決まったリズムに合わせてみんなで叩く事を楽しむ。
秋～冬　レベルを上げて難しいリズムをみんなで合わせて叩く。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定
太鼓を叩く際には、バチが当たらないよう広い場所を用意する。（ランチルーム、保育室を広く広げる等）
太鼓だけでなく、練習用の台を購入し、より楽しめるよう設定した。

４．探究活動の実践＜活動の内容＞





太鼓教室をはじめた頃は、興味が薄かったり、集中力が続かない様子であった。
練習用の台を購入した事で待つ時間が減り、叩くことを楽しめる時間が増えた。
夏祭りで年長組がみんなの前で発表した後から「たのしい」「もっとかっこよく叩きたい」と意欲的な発言が見られた。どうしたらいい音がなるのか、みんなで揃えるにはどうしたら良いのか話し合う姿も多くみられた。

最初の頃は、興味が薄かった子も回数を重ねていくうちに楽しさに気づき「年長組として」「かっこいいところを見せたい」という気持ちから、リズムをとる事が苦手な子も意欲的に取り組む姿勢が感じられた。

5．　振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞

最初、素手で叩いてみて「面白い」事に気づき、バチを持って、色々なところを叩いて音の違いに気付いていった。回数を重ねていくうちに、「かっこいいところを見せたい」「みんなで揃えたい」と意識が変わっていく様子がみられた。年長組の後半になると、「どうしたらできるか」探求し、友達同士意見を出し合ったり話しあう姿がみられた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0518
施設名	東中川保育園
施設所在地	東京都葛飾区高砂6-4-15
法人名	社会福祉法人東中川会

１．活動のテーマ

体の動かし方

＜テーマの設定理由＞

子ども達が園庭や公園遊びをする中で、追いかけっこやサッカーといった特定の遊びに内容に偏りが見られたため、体を使った遊びの種類を多く知って欲しいと感じた。
また、子ども達が探索活動を行う際に、よじ登る事や這って移動するといった動きを求められるような自然や環境が減少しているように感じた。そのため、様々な体の動かし方を身に着ける事で、遊びの幅や探索活動の方法を広げる事ができると考えた。

２．活動スケジュール

各クラス通年週１回実施
３歳児クラス：走る、投げるといった基本的な動作
４歳児クラス：うつ伏せから起き上がって走る、サーキット等の複合的・連続的な動作
５歳児クラス：道具を使った運動や、チームでの運動
※４歳・５歳児のクラスの内容は前年クラスの内容を発展させた活動も含めて行う。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

専門講師による教室を実施する事で、正しい姿勢や身体の動かし方を知る事ができるようにした。体育教室で行った事を外遊びの時間などにやって見る事で、教室の内容を振り返ったり、発展させられるようにした。
雨の日でも充分に体を動かせるように、室内でも広く場所を確保するようにした。

４．探究活動の実践＜活動の内容＞

様々な身体活動を通して、体の動かし方を楽しみながら学んだ。
外部の専門講師を招いて毎週体育教室を実施した。
マットや鉄棒などの器具を使いながら職員や講師のサポートのもと、運動やゲームを行い日常生活では行わない動きを行った。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

楽しみながら体を動かしていた。送迎の際に「今日は体育教室だったんだ」と嬉しそうに活動内容やできた事を保護者に伝える姿が見られた。
難しい動きをする時には、職員や講師に「手伝って」「支えていて」とサポートを求め、できたときには「できたよ！」と見せに来てくれる姿が見られた。教室の時間だけでなく、日常保育の中でも教室で行った動きを見せに来てくれる事も多くあった。





5．　振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞

体の動かし方という運動機能の発達を見込んでの活動であったが、当初の想定以上に子ども達の心が発達する姿が見られた。例えば、縄跳びを上手に飛べないと悔しがっている子に対して、子ども達同士でコツを教え合ったり、できたときに褒め合ったり競い合う姿が見られた。上手くできた子は、できた事に楽しさと達成感を感じ、成功を確かめるように繰り返し行っていた。こうした姿から「やってみよう」「できた」「楽しい」「もっとやりたい」という、新しい事に楽しく挑戦する気持ちが育まれていると感じた。